

データで見た横須賀市の現状と将来について



①人口の推計



2020 年 約 39 万人 ⇒ 2030 年 約 35 万人



②高齢化率の推計



割合 2020 年 約 31.8% ⇒ 2030 年 約 33.7%

人数 2020 年 約 124,000 人 ⇒ 2030 年 約 118,000 人



③生産年齢人口率の推計



割合 2020 年 約 57.6% ⇒ 2030 年 約 56.8%

人数 2020 年 約 225,000 人 ⇒ 2030 年 約 200,000 人



④産業別就業者数



卸売業、小売業、医療、福祉、公務（自衛隊関連）が多い



⑤市民アンケートの結果

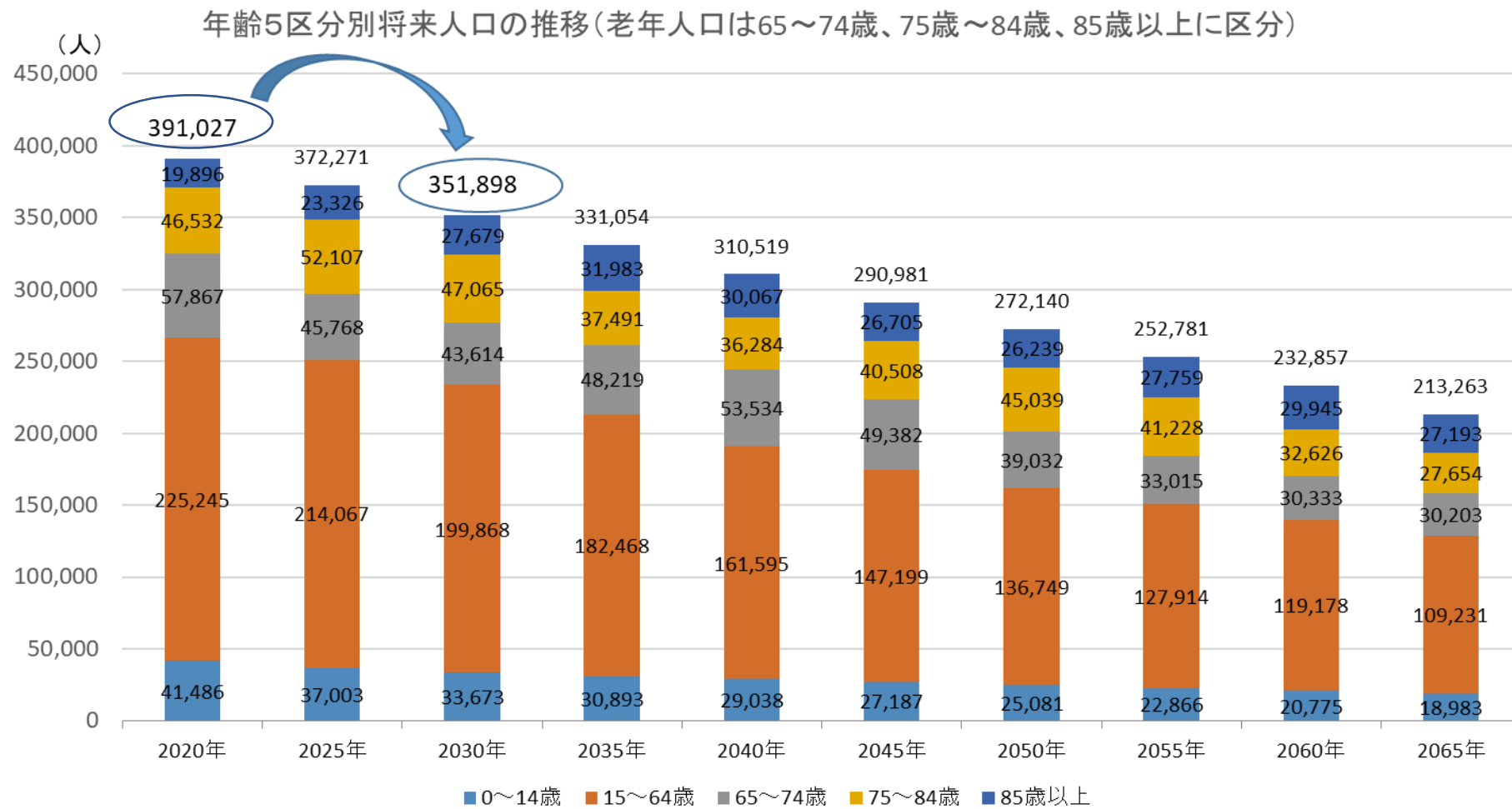


- ・市外に転居したい理由の上位は「通勤・通学に不便」、
「これまでと違う環境で暮らしたい」、「魅力的な商業施設がない」
- ・横須賀市の自慢の上位は、「自然が豊かなこと」、「温暖な気候」、
「都会すぎず、田舎すぎないところ」

横須賀市 人口ビジョンの概要 (補足説明資料)

全体人口の推移

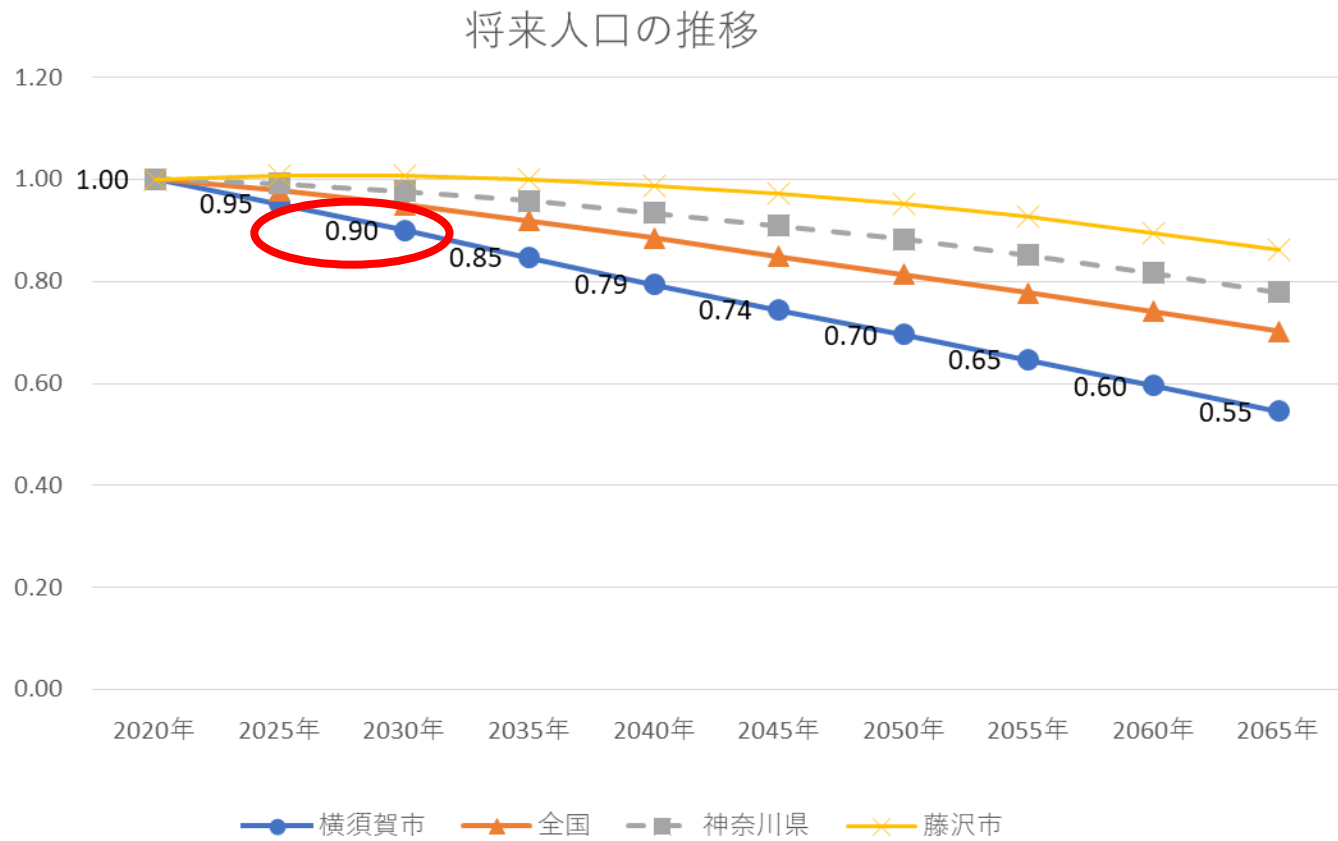
人口は2030年には約35万人に減少
その後も減少は続いていく。



資料：国立社会保障・人口問題研究所推計（国推計）を基に作成

全体人口の推移(2020年比)

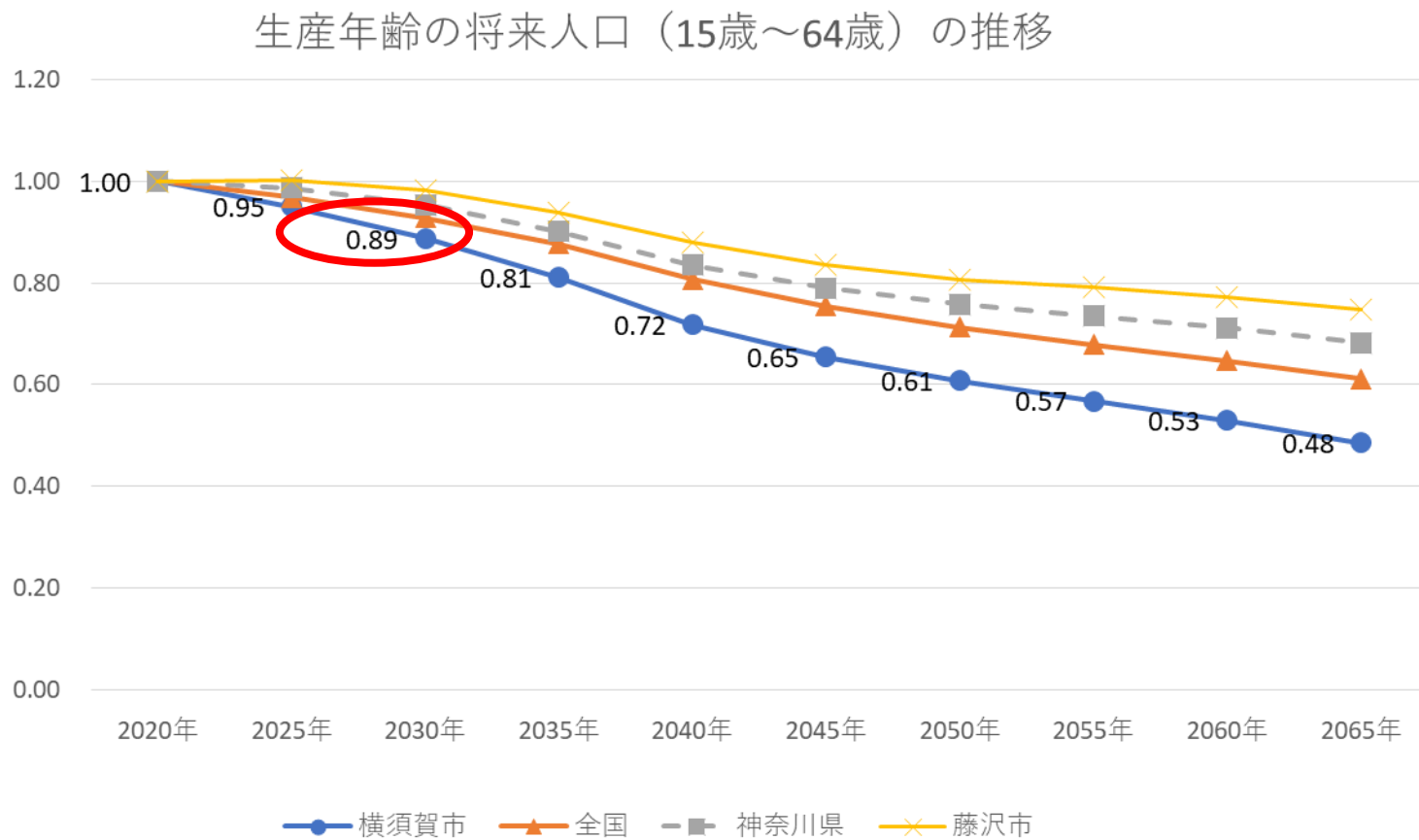
本市の人口減少スピードは、
全国平均などと比較しても速い。



資料: 国立社会保障・人口問題研究所推計(国推計)を基に作成

生産年齢人口の推移(2020年比)

15歳～64歳の生産年齢人口は、
全体人口の減少率を上回るスピードで減少していく。



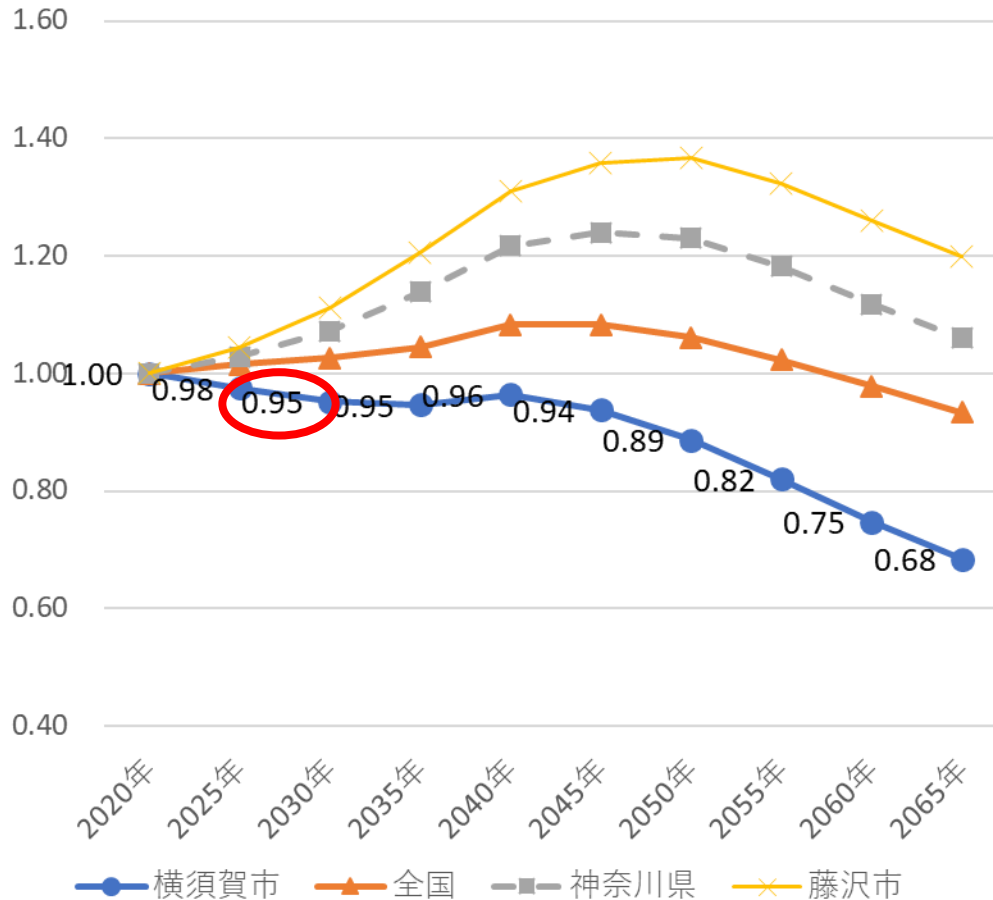
資料: 国立社会保障・人口問題研究所推計(国推計)を基に作成

65歳以上人口の推移(2020年比)

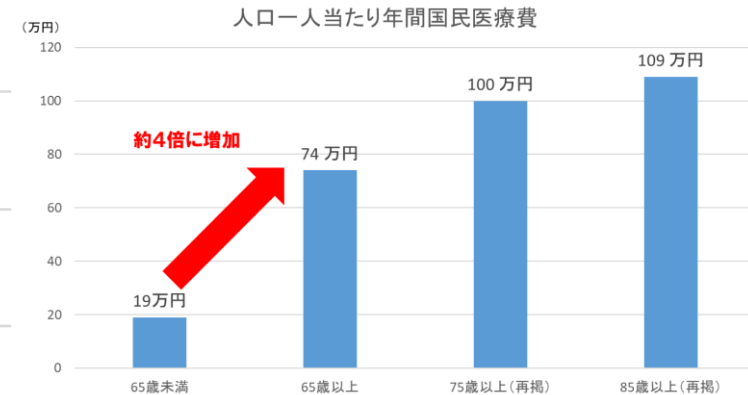
65歳以上人口は2020年に最大数となり、その後減少していく。

全国では、2040年に最大数となる。この年齢層は一例として医療需要と関連が見られる。

65歳以上の将来人口の推移



人口一人当たりの年間国民医療費（全国数値）は、
65歳未満は年**19万円**に対し
65歳以上は年**74万円**と大幅に増加



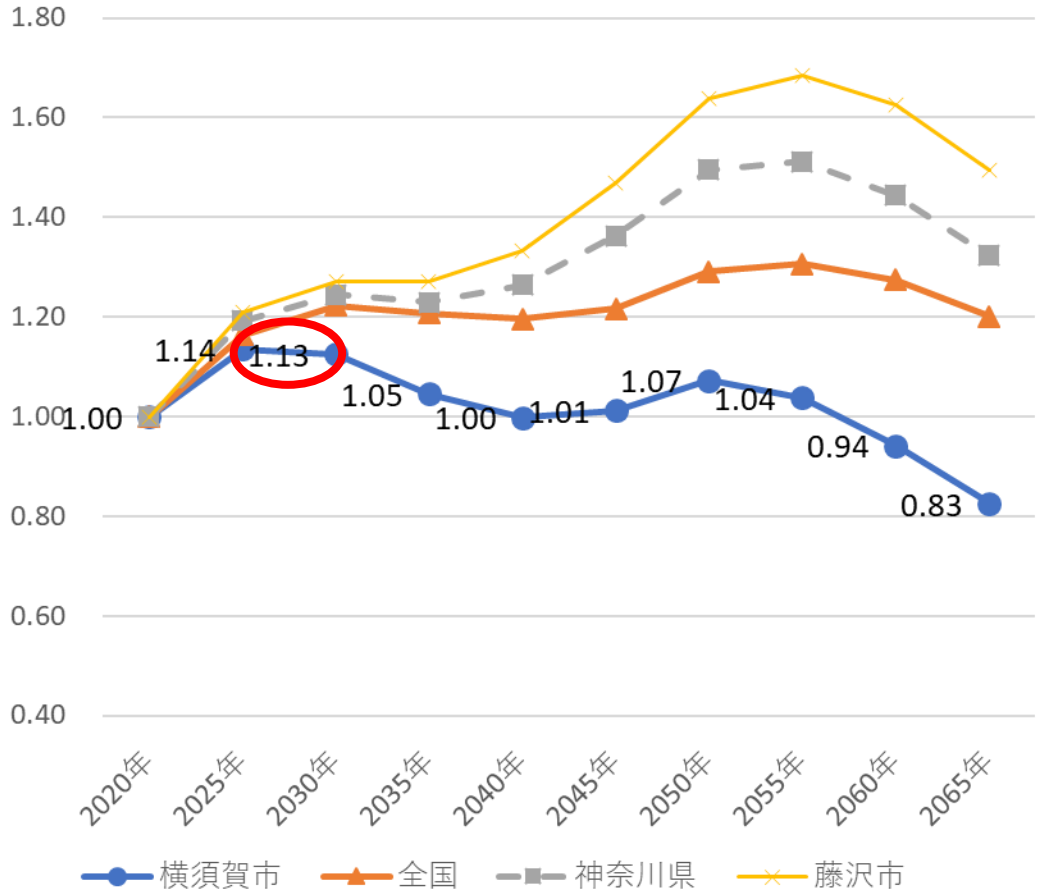
資料：厚生労働省「平成29年度国民医療費の概況」

資料：国立社会保障・人口問題研究所推計(国推計)を基に作成

75歳以上人口の推移(2020年比)

75歳以上人口は2025年～2030年にかけて最大数となり、その後減少していく。
全国では2055年に最大数となる。この年齢層は一例として介護需要と関連が見られる。

75歳以上の将来人口の推移



要支援、要介護認定の割合（全国数値）は、
65～74歳の**4.3%**から
75歳以上で**32.5%**と大幅に増加

65～74歳		75歳以上	
要支援	要介護	要支援	要介護
246 (1.4)	510 (2.9)	1,470 (9.0)	3,842 (23.5)

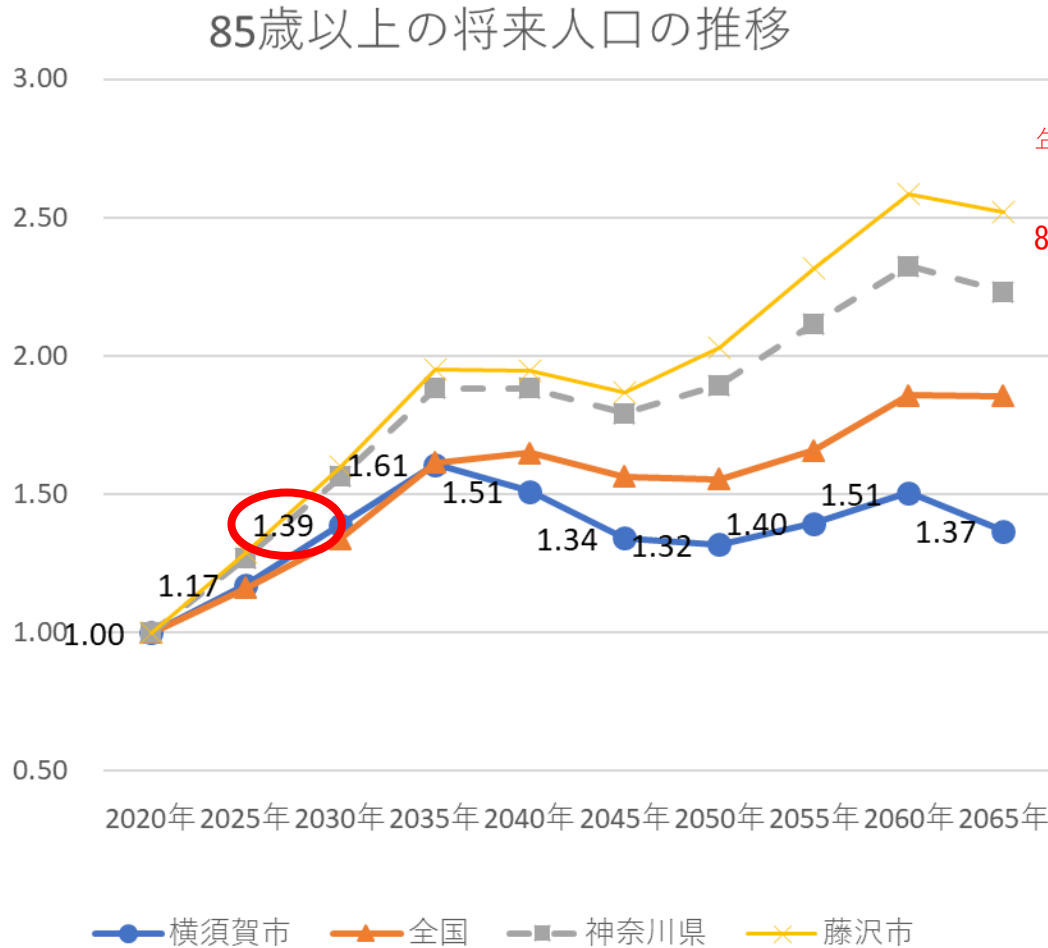
資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」（平成27年度）より算出
（注1）経過的要介護の者を除く。
（注2）（ ）内は、65～74歳、75歳以上それぞれの被保険者に占める割合

資料：内閣府「平成30年度版高齢者白書」

資料：国立社会保障・人口問題研究所推計(国推計)を基に作成

85歳以上人口の推移(2020年比)

85歳以上人口は2035年に最大数となり、その後増減を繰り返しながら逡減していく。
全国では2060年に最大数となる。この年齢層は一例として認知症有病率と関連が見られる。



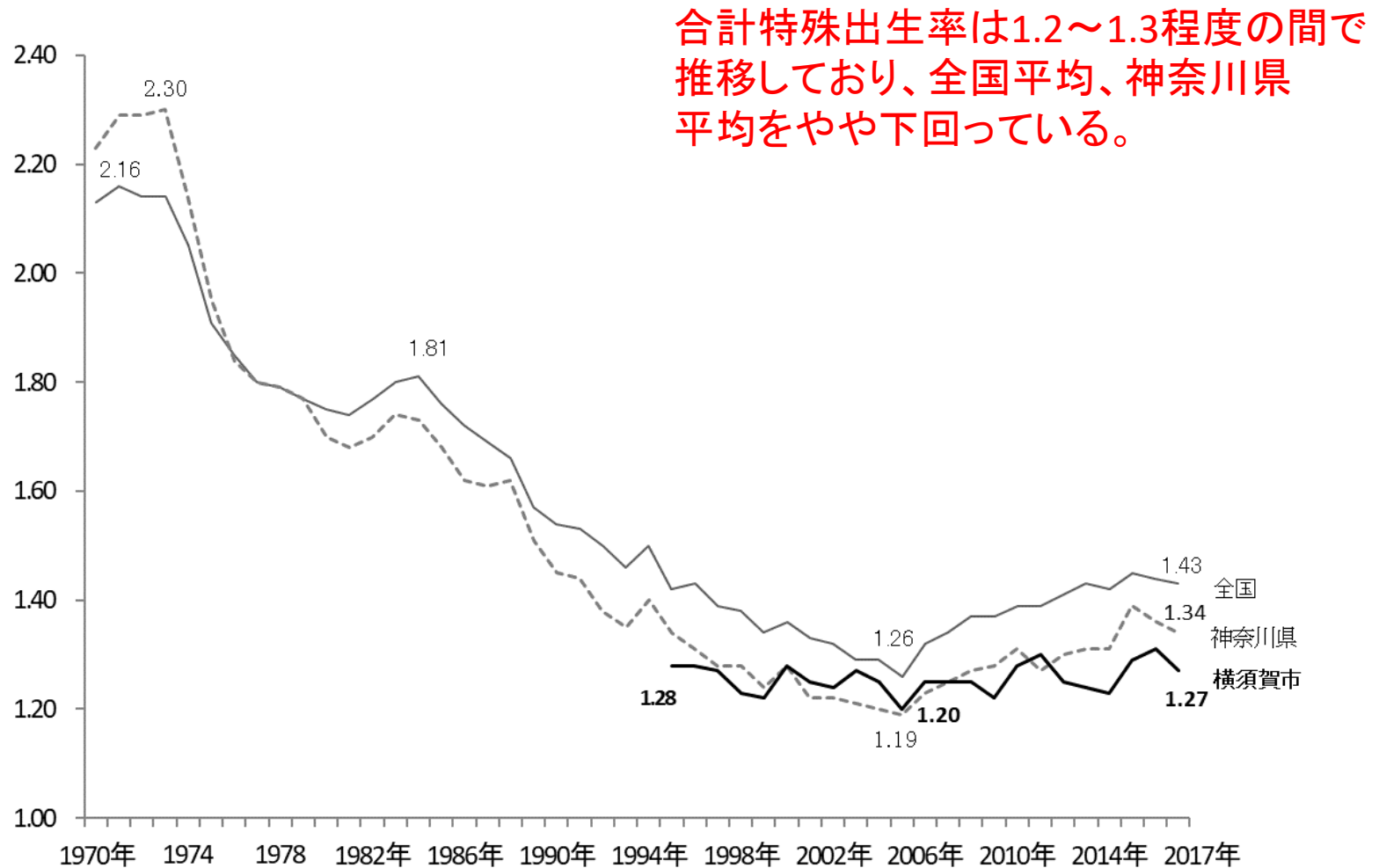
年齢別認知症有病率推計（全国数値）は、
85歳以上で**55.5%**と高い数値を示している。

年齢別認知症有病率推計		
65歳～74歳	75歳以上	85歳以上(再掲)
3.46%	27.8%	55.5%

資料:「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究
(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業)」より算出

資料:国立社会保障・人口問題研究所推計(国推計)を基に作成

合計特殊出生率の推移



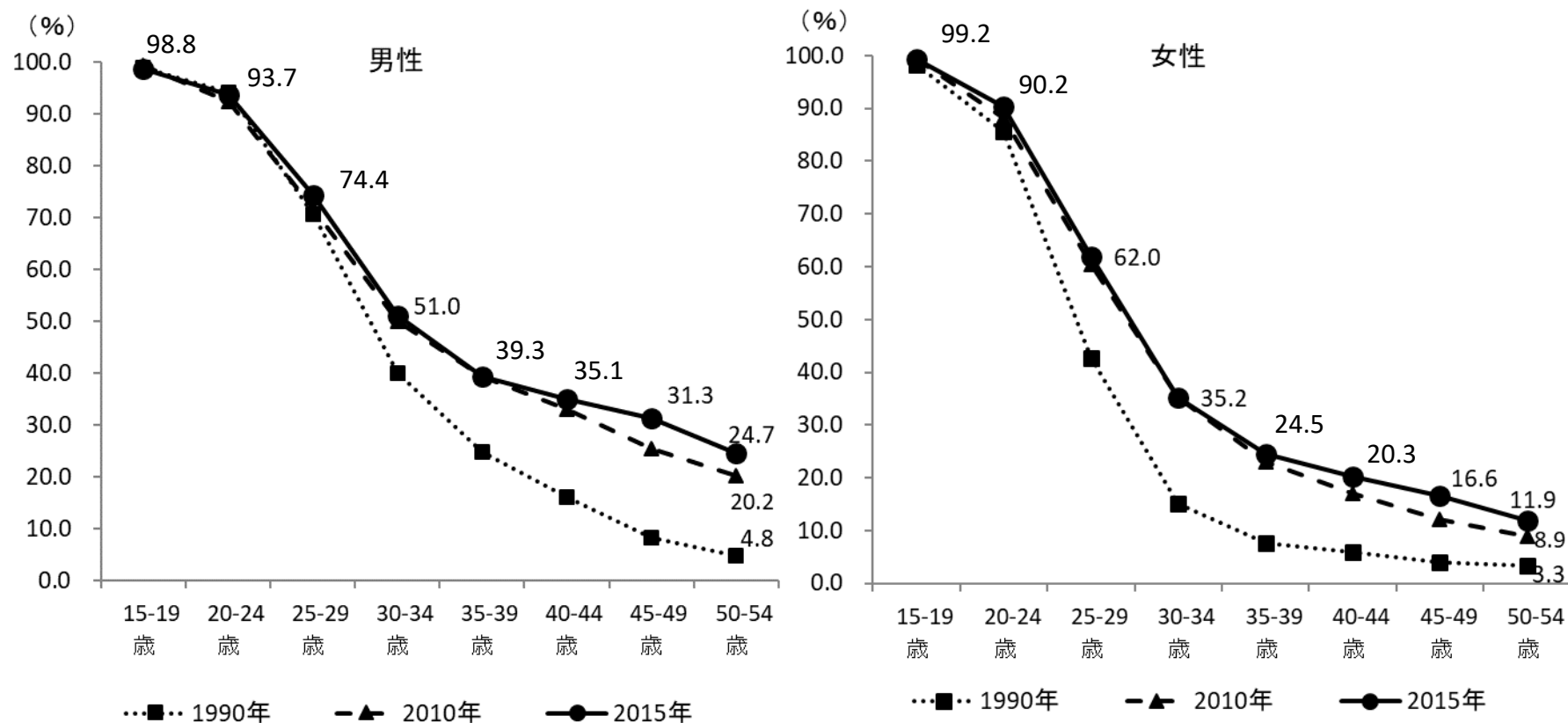
資料: 横浜賀市人口ビジョン

年齢別未婚率の推移

未婚率は男女ともに上昇傾向が見られる。

2015年の50歳時未婚率は、男性で3割、女性で約1.5割で、非婚化の傾向も見られる。

年齢別未婚率の推移(本市)

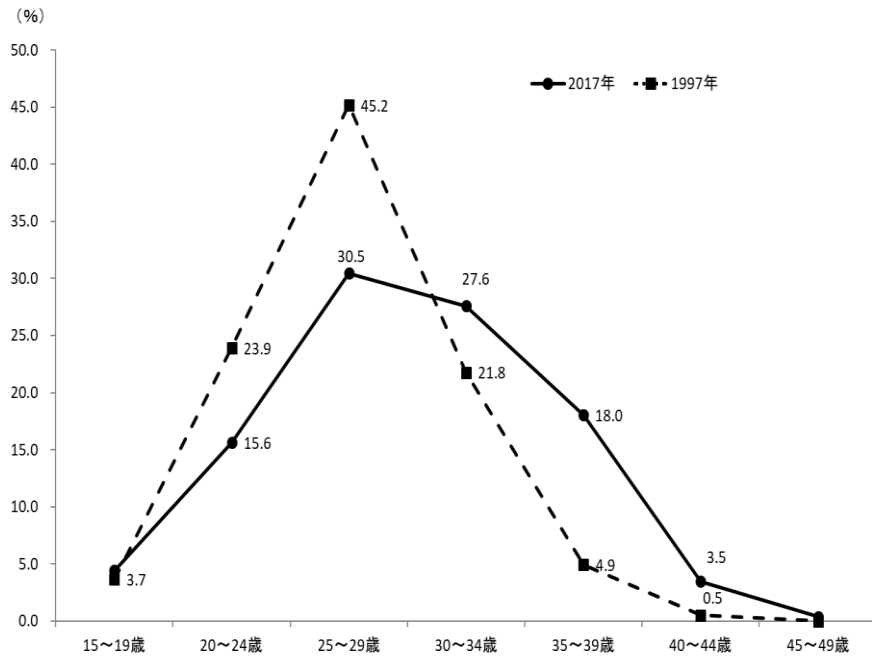


資料:横須賀市人口ビジョン

結婚している世帯の出産数の推移

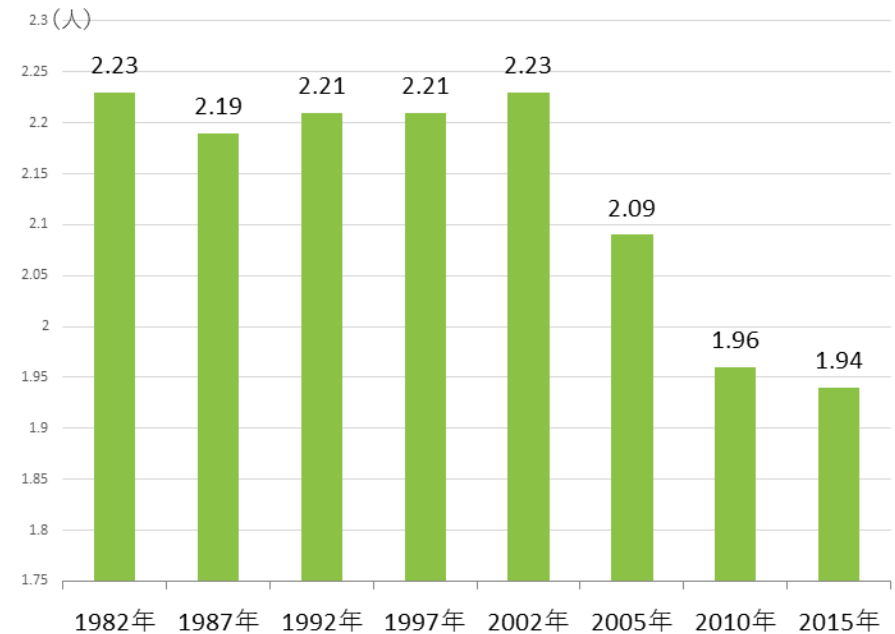
晩婚化に伴い晩産化が進んでいる状況にある。
結果として結婚している世帯の出産数も近年減少傾向が見られる。

母の年齢階級別第1子出生児数の割合



資料：横須賀市人口ビジョン

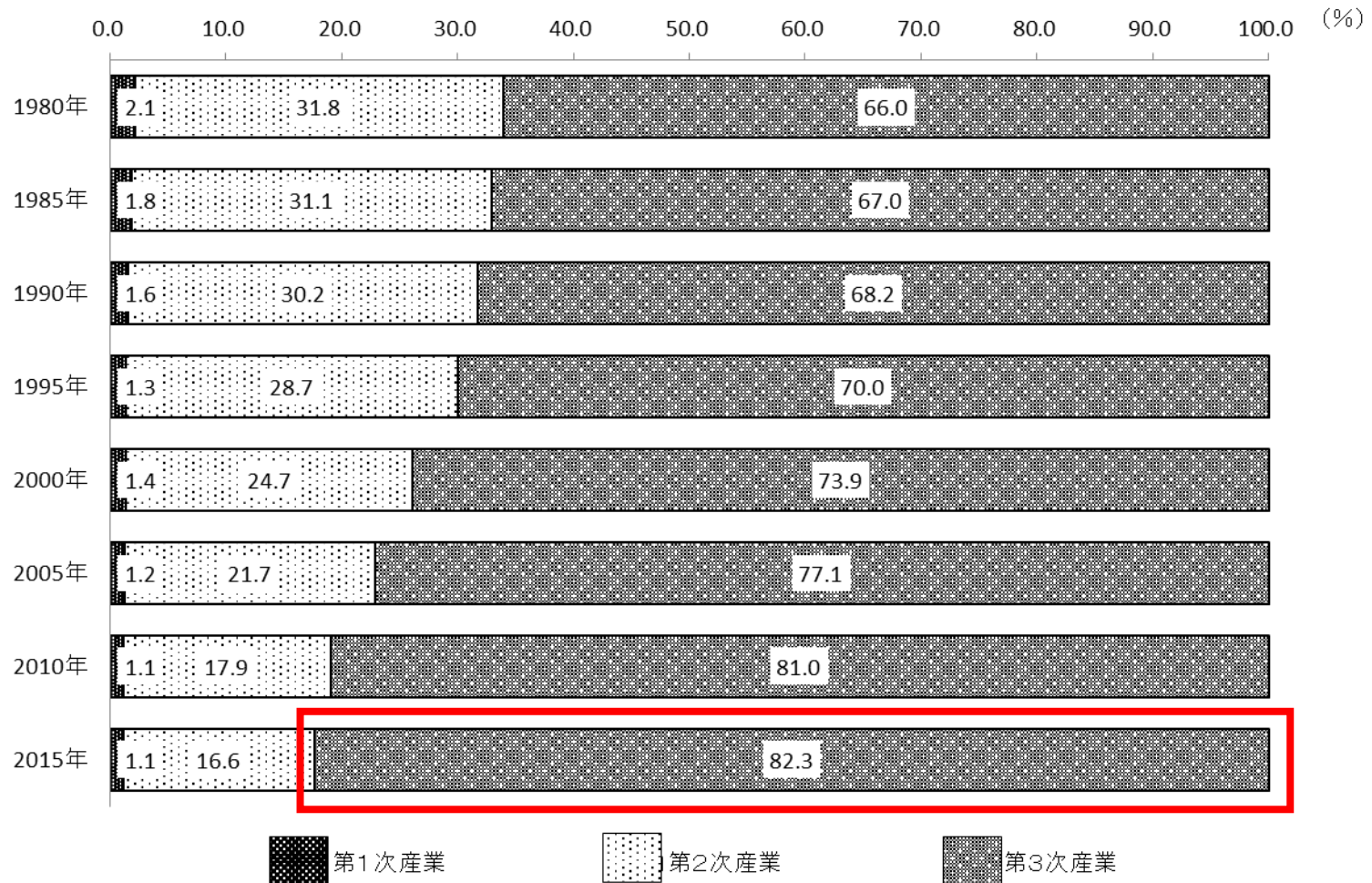
結婚持続期間15～19年の世帯の平均出生子供数(全国値)



資料：厚生労働省「出生動向基本調査」

産業3区分別就業者割合の推移

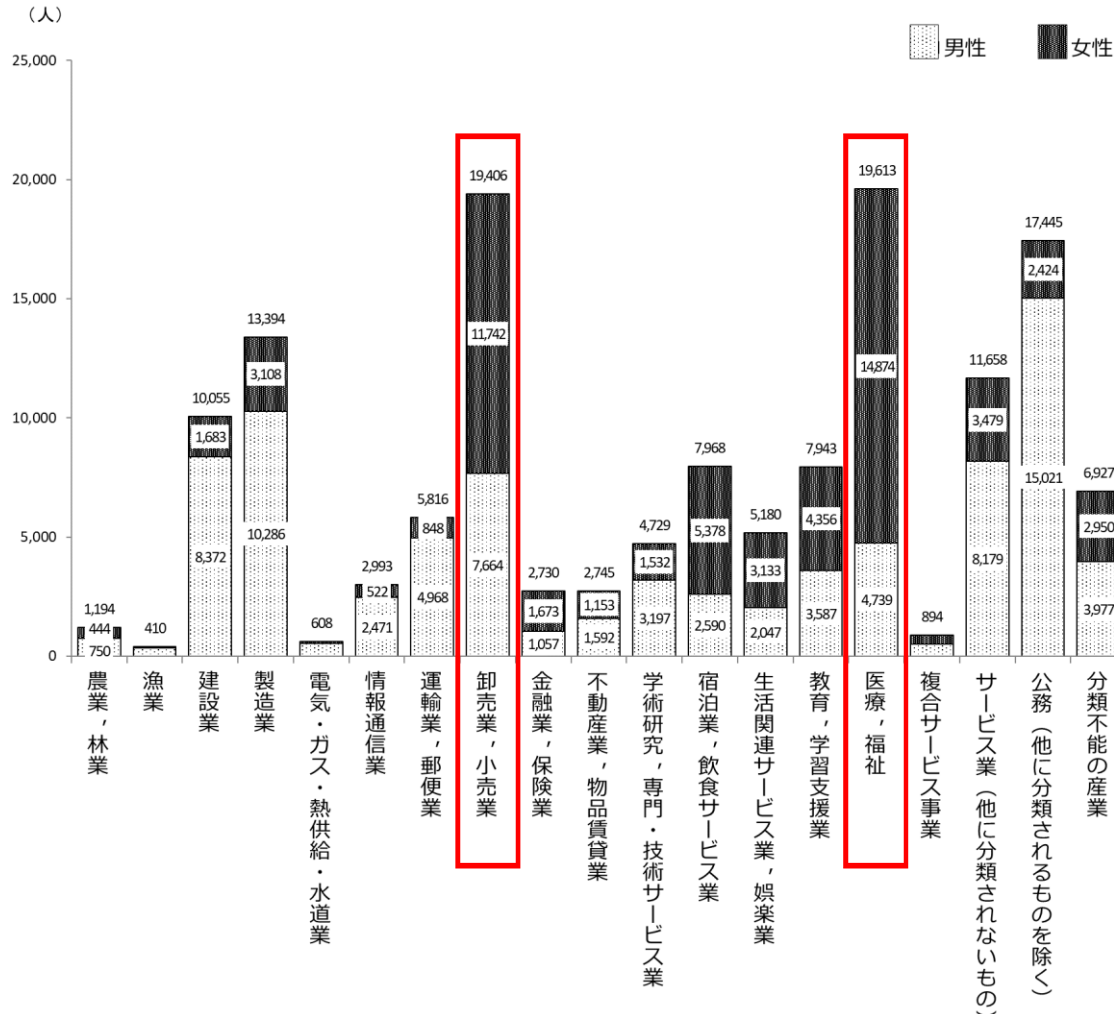
第3次産業の構成比が伸びており、2015年では80%を超える状況にある。



資料:横須賀市人口ビジョン

男女別産業大分類別就業者数(2015年)

「卸売業、小売業」「医療、福祉」など、域内の「ひと」を対象とする就業者が多い。
男性の「公務」就業者が多く、自衛隊関係施設が立地していることが影響と考えられる。



第1次産業

「農業、林業」、「漁業」

第2次産業

「建設業」、「製造業」

第3次産業

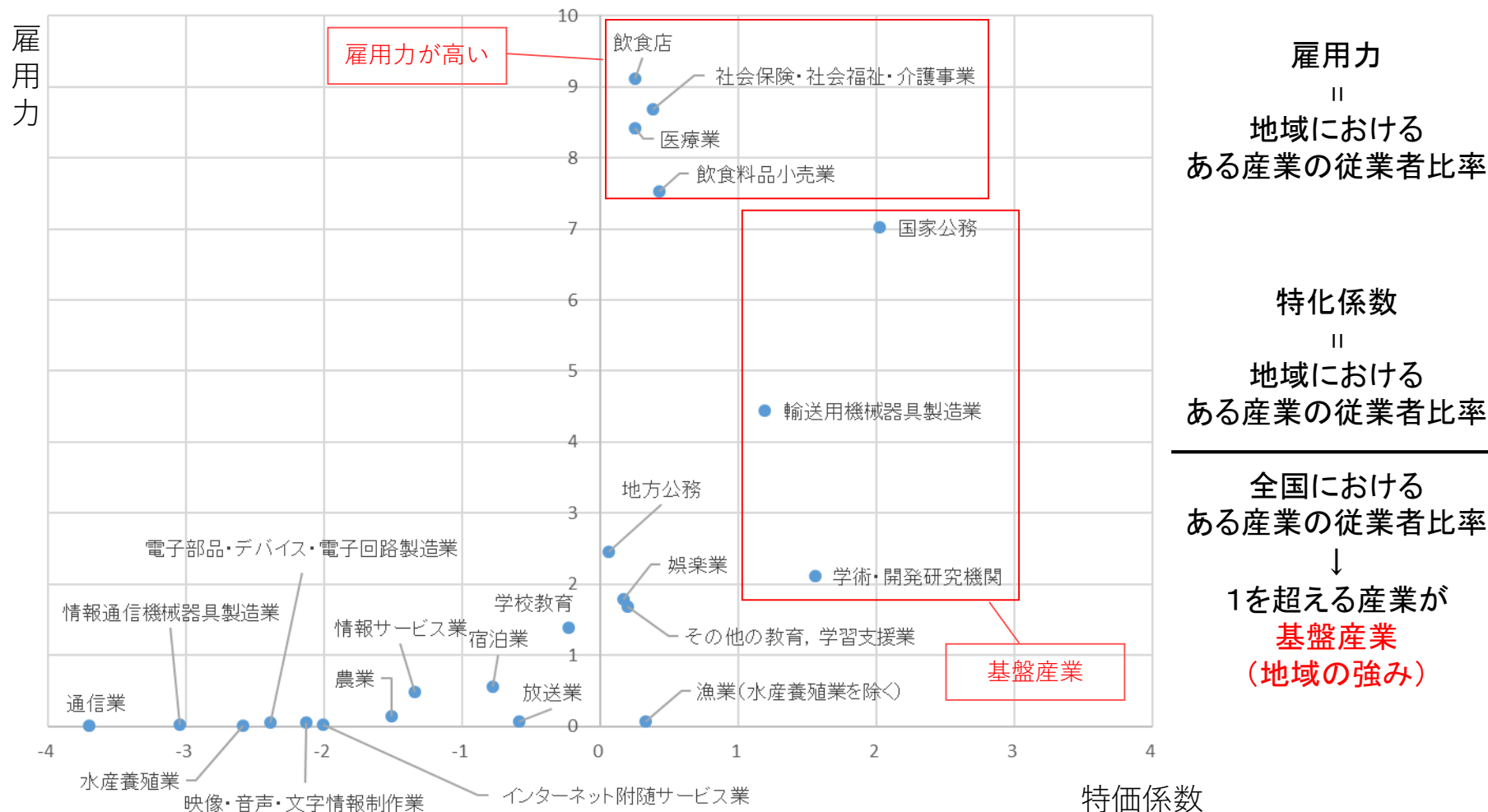
「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」、「複合サービス事業」、「サービス業（他に分類されないもの）」及び「公務（他に分類されるものを除く）」

※「分類不能の産業」はどの産業にも分類されないため、割合の算出において、分母から「分類不能の産業」を除いている。

資料:横須賀市人口ビジョン

主な産業中分類の雇用力

基盤産業(＝域外を主たる販売市場とした産業)が地域の産業を牽引する
全国に対して、従業者比率が高い(特化係数が高い)産業が基盤産業になりうる



資料:総務省「統計ダッシュボード 地域の産業・雇用創造チャート」(2016年)

横須賀市民アンケート報告書（一部抜粋）

令和2年（2020年）6月

横 須 賀 市

調査目的および調査概要

【調査目的】

市民の定住意向、生活スタイルや課題、また横須賀に対する思いなどを調査し把握することで、今後の政策や施策展開等の参考にする。

【調査概要】

調査対象	15 歳以上の市民 3,000 人 (令和 2 年(2020 年) 1 月 1 日現在 ; 住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	・ 対象者に調査票を送付 ・ 回答方法は、郵送とインターネットのいずれかを選択
調査期間	令和 2 年(2020 年) 2 月 29 日～3 月 19 日 * 発送日ー投函締切日
回収数	1558 件 うち、インターネット回答 ; 253 件 (16.2%)
回収率	51.9%
調査項目	1 定住意向について 2 結婚について 3 移動、買い物、情報入手について 4 人との交流、地域とのつながりについて 5 生活実態について 6 これからの生活について

- 基数となるべき実数 (n) は、各設問に対する有効回答者数である。
- 回答割合 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100% とならない場合がある。
また、複数回答の設問では、割合の合計が 100% を超える。
- 性別の「その他、無回答」及び、年代別の「無回答」は回答数僅少のため掲載していない。
- なお、本文中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

目次

I	集計結果（抜粋）	1
1	定住意識について	1
問 1	横須賀市に引っ越してくる前の住まい	1
問 4	これからも横須賀市に住み続けたいか	2
問 5	「市内に住み続けたい」または「いずれは戻ってきたい」と思う理由	2
問 6	「市外に転居したい」または「一度は市外に出たい」と思う理由	3
問 7	どこに転居したいか	3
4	人との交流、地域とのつながりについて	4
問 20	家族・職場以外の人との会話頻度	4
問 21	趣味のグループ・サークル活動や習い事への参加状況	5
問 22	地域活動やボランティア活動、NPO 活動への参加状況	5
問 23	地域活動（町内会活動など）への協力または参加を増やすための条件・きっかけ	6
問 24	同居家族以外で頼りにできる人がいるか	6
問 26	家族・親族以外の方と、頼り・頼られる関係をつくりたいか	7
6	これからの生活について	8
問 36	今後の生活において不安に感じていること（自由記述）	8
問 37	横須賀市の自慢（自由記述）	8
問 38	10 年後、横須賀はどのような街であってほしいか（自由記述）	8
II	集計結果に対する考察	9
III	調査回答者の属性	12

I 集計結果（抜粋）

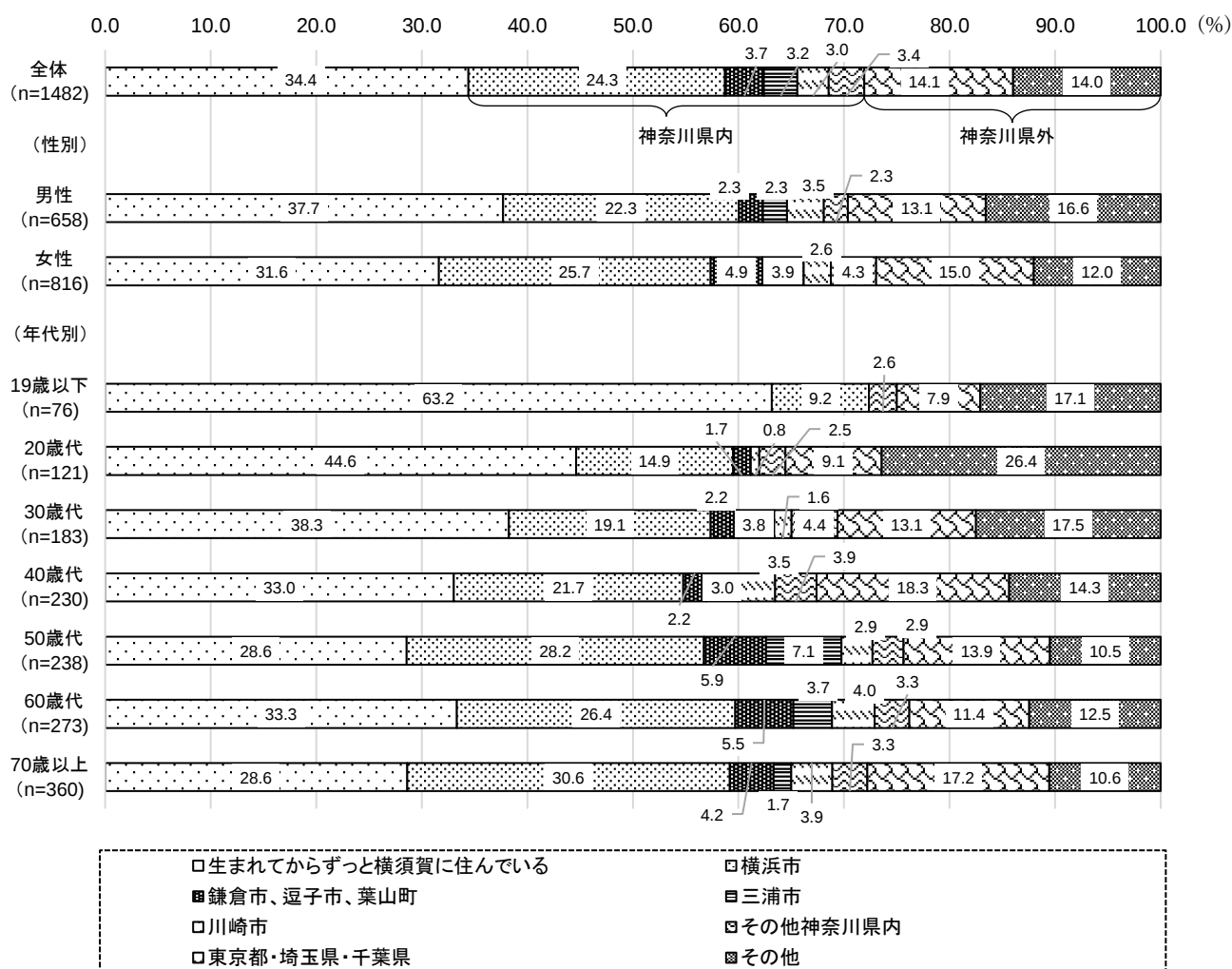
1 定住意識について

問1 横須賀市に引っ越してくる前の住まい【報告書 p.10】

- 回答者の3割強が「生まれてからずっと横須賀に住んでいる」を選択。

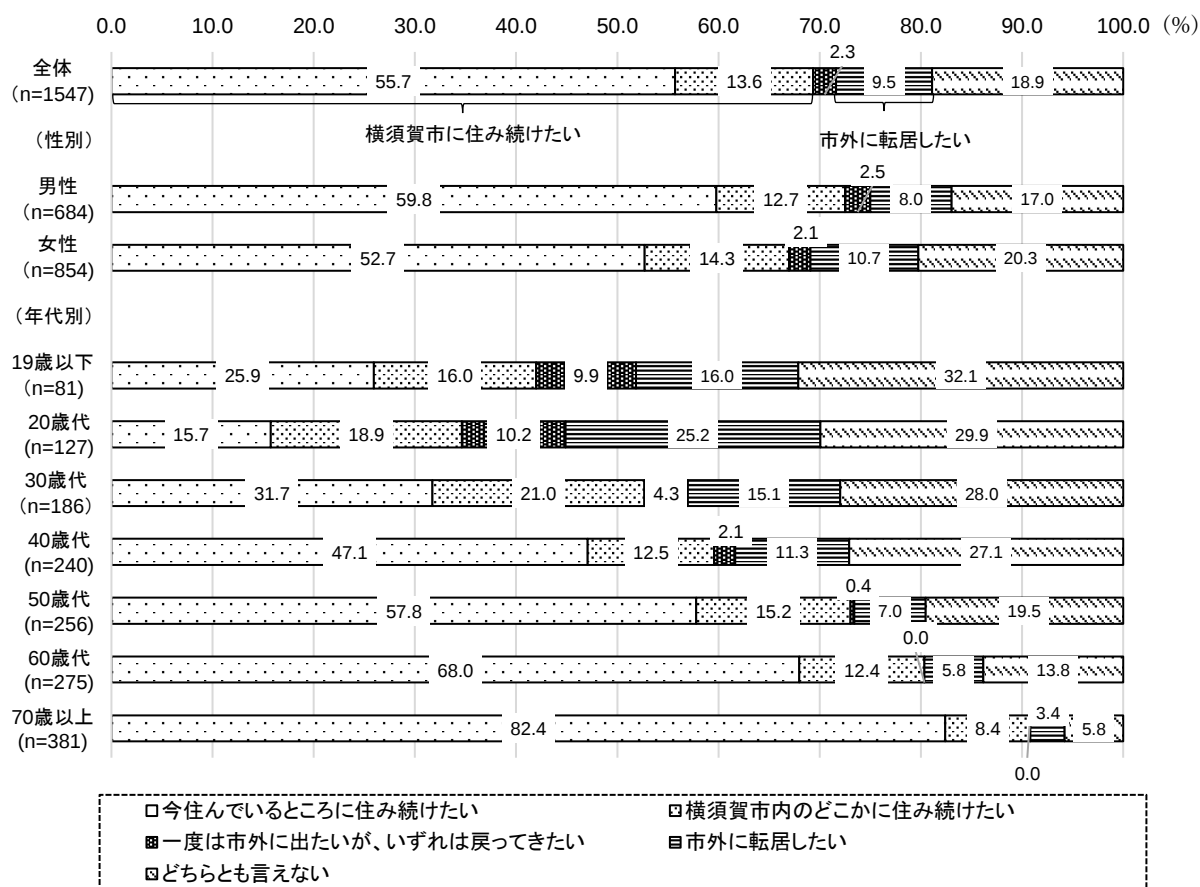
転入前の住所地：約4割が神奈川県内、うち約半数が「横浜市」。

約3割が神奈川県外、うち約半数が首都圏。



問4 これからも横須賀市に住み続けたいか【報告書 p.13】

- 回答者の約7割が市内に住み続けたいを選択。約1割が「市外に転居したい」を選択。
- 30代以降、年齢があがるにつれて定住意向は高い。

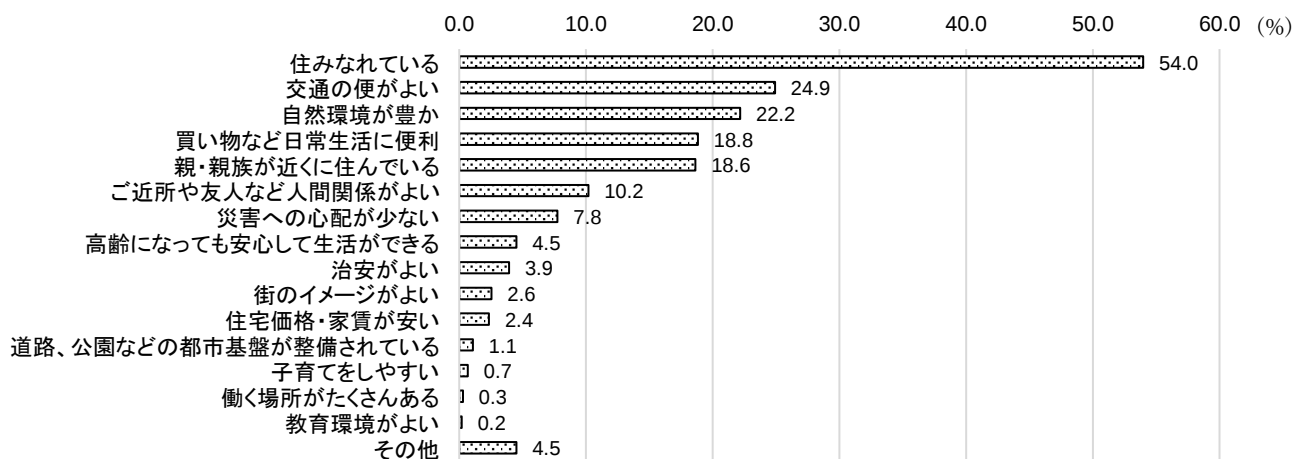


問5 「市内に住み続けたい」または「いずれは戻ってきたい」と思う理由【報告書 p.14】

※複数回答(○は2つまで)

- 市内に住み続けたい理由の上位は、「住みなれている」、「交通の便がよい」。

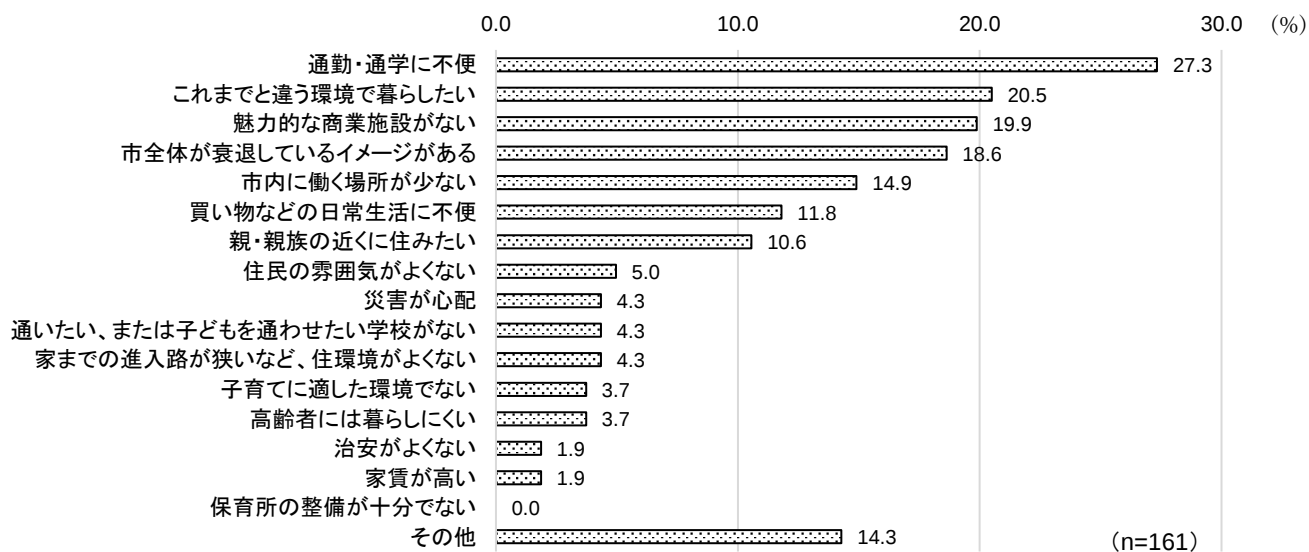
図表1-5 (n=1019)



問6 「市外に転居したい」または「一度は市外に出たい」と思う理由【報告書 pp.16-17】

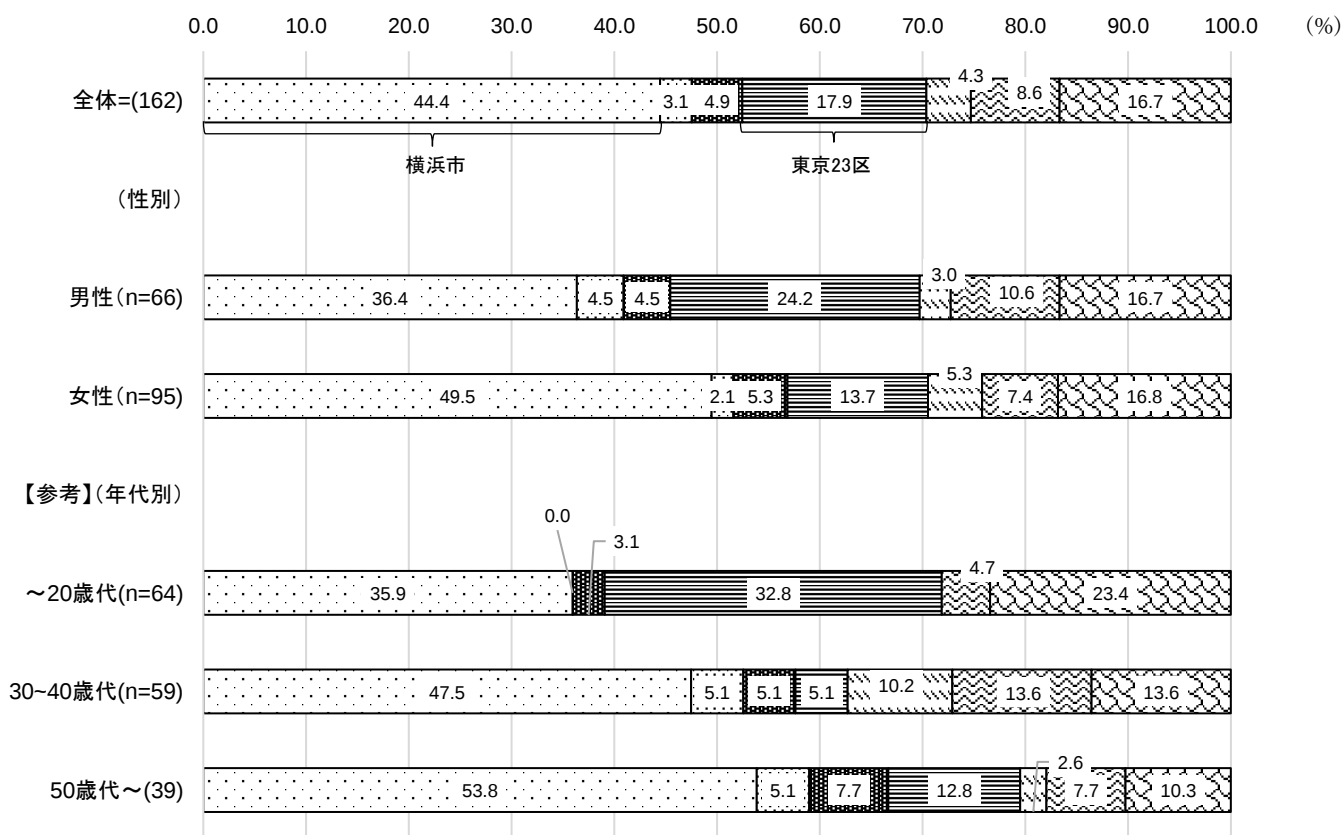
※複数回答(○は2つまで)

- 市外に転居したい理由の上位は、「通勤・通学に不便」、「これまでと違う環境で暮らしたい」。



問7 どこに転居したいか【報告書 p.18】

- 主な希望の転居先は、「横浜市」「東京 23 区」。

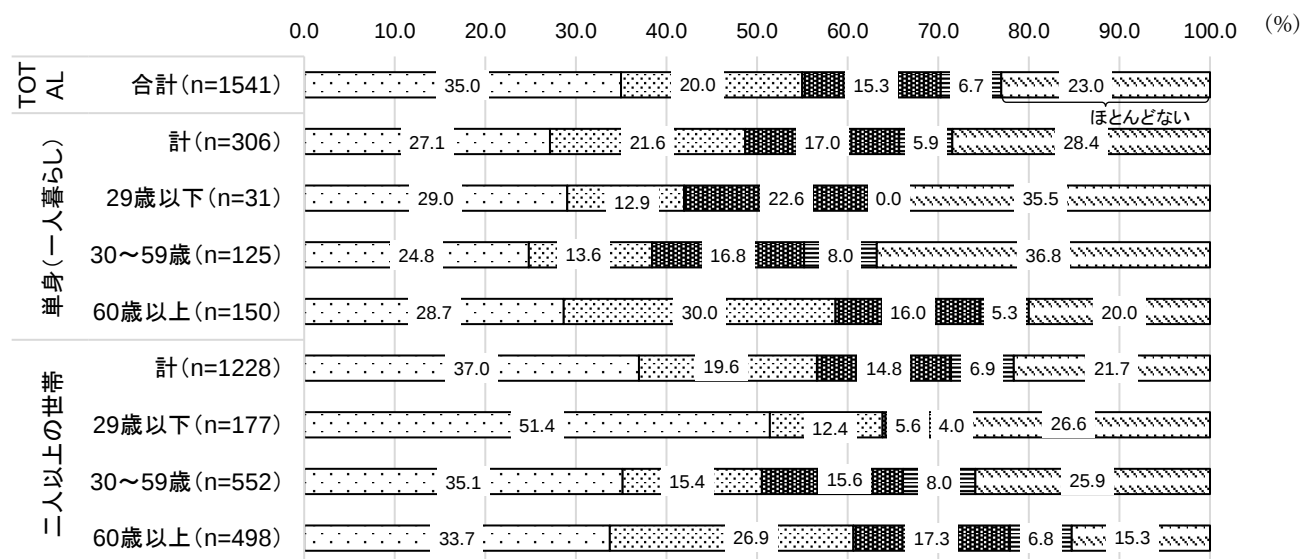
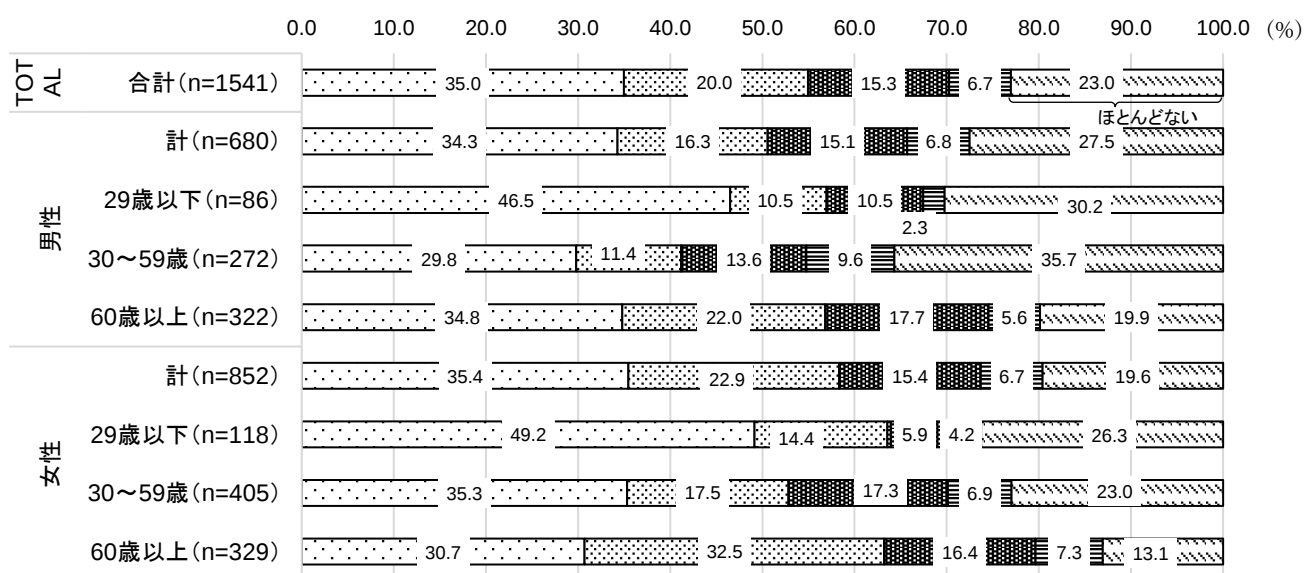


□横浜市 □川崎市 ■神奈川県内 ■東京23区 ■東京都内(23区外) ■その他 ■具体的な場所は考えていない

4 人との交流、地域とのつながりについて

問 20 家族・職場以外の人との会話頻度【報告書 pp.40-41】

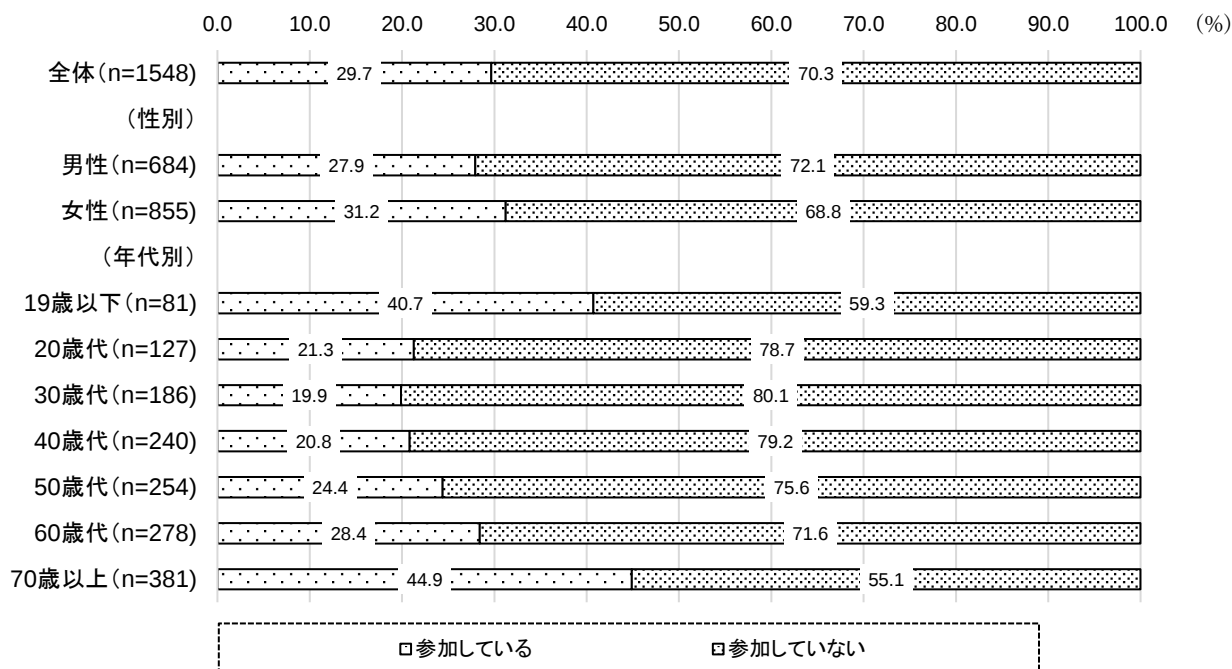
- 回答者の約7割が、1週間のなかで家族や職場以外で会話の機会がある。一方、約4人に1人が「ほとんどない」を選択。



□ ほぼ毎日 □ 2〜3日に1回程度 ■ 週1回程度 ■ 2週間に1回程度 □ ほとんどない

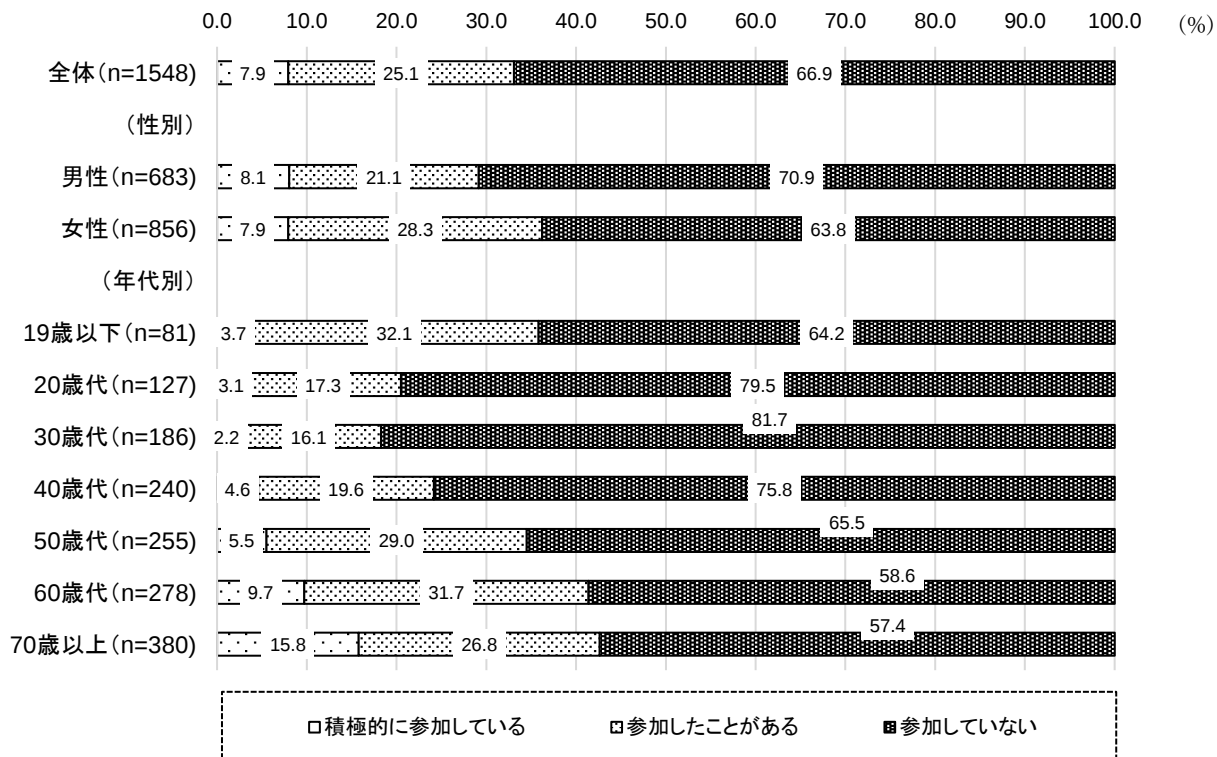
問 21 趣味のグループ・サークル活動や習い事への参加状況【報告書 p.42】

- サークル活動等への参加は、3割程度。



問 22 地域活動やボランティア活動、NPO 活動への参加状況【報告書 p.43】

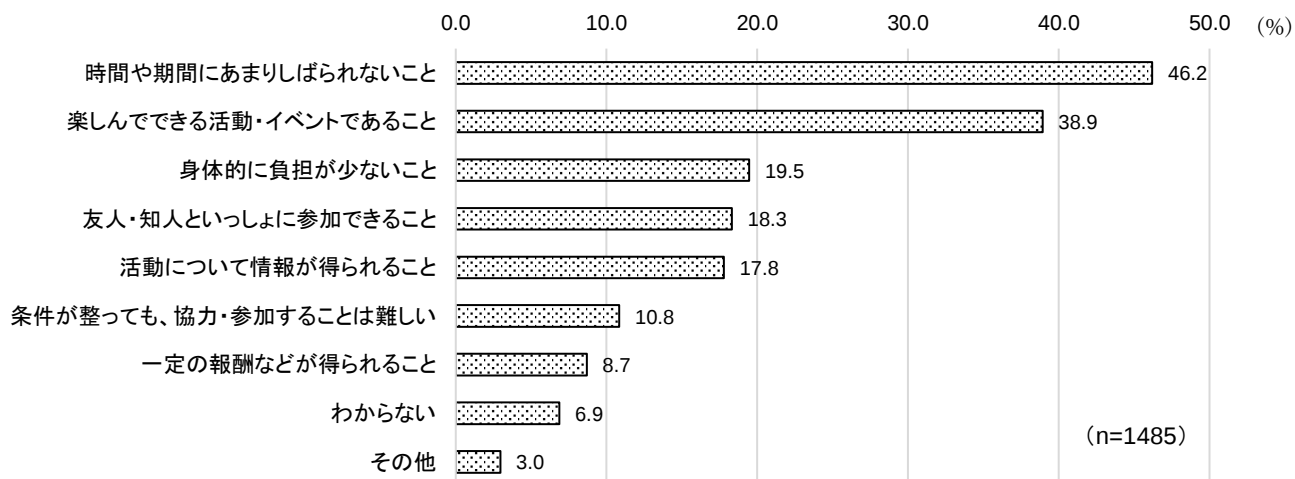
- 地域活動等への参加は、3割程度。



問 23 地域活動(町内会活動など)への協力または参加を増やすための条件・きっかけ【報告書 p.44】

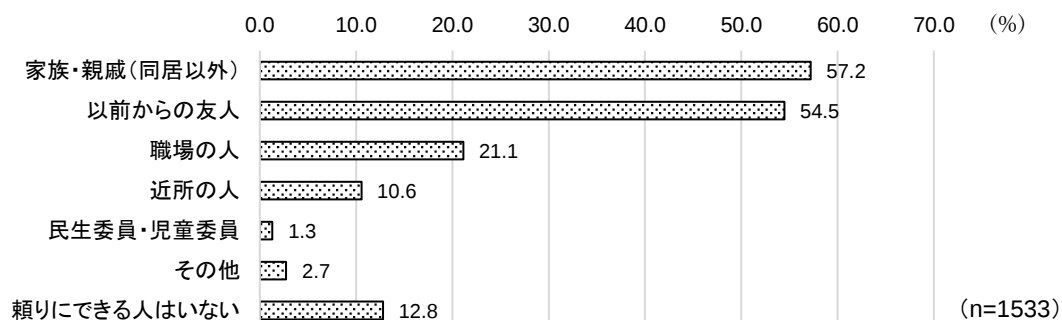
※複数回答 (○は2つまで)

- 地域活動等への参加を増やすための条件・きっかけと考えられている上位2項目は、「時間や期間にあまりしばられないこと」「楽しんでもできる活動・イベントであること」。



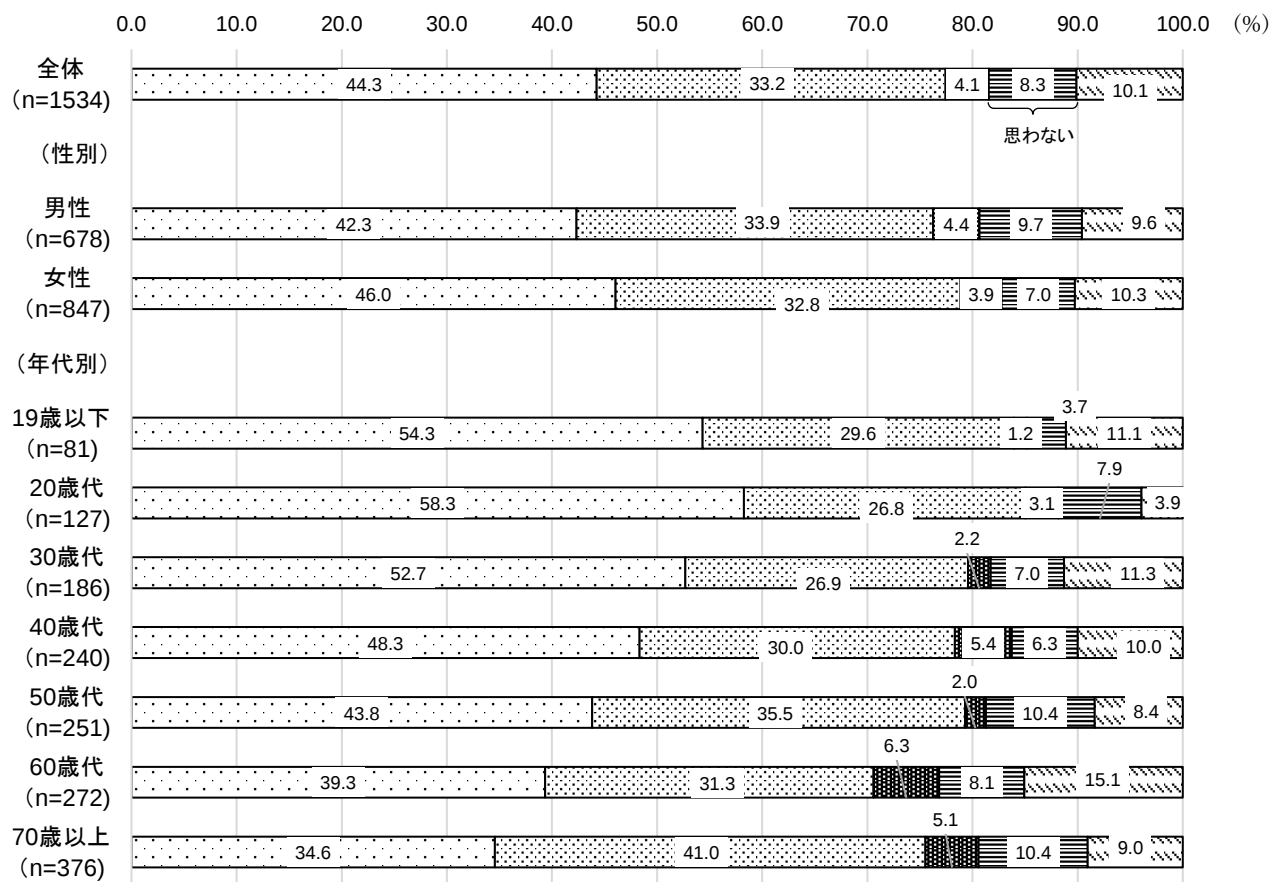
問 24 同居家族以外で頼りにできる人がいるか【報告書 p.45】※複数回答

- 回答者の約1割が、同居家族以外に「頼りにできる人がいない」。



問 26 家族・親族以外の方と、頼り・頼られる関係をつくりたいか【報告書 p.47】

- 家族・親族以外の方と、頼り・頼られる関係をつくりたいと「思わない」を選択したのは、約 1 割。



☐ 思う
☐ 頼られれば助けてあげたいが、自分のことは自分で何とかしたい
☐ 困ったときには頼りたいが、他人を助ける余力はない
☐ 思わない
☐ わからない

6 これからの生活について

【主な内容】

問 36 今後の生活において不安に感じていること（自由記述）【報告書 pp.58-59】

- ・ 介護や健康といった、年齢を重ねることによって生じる不安が多い。
- ・ 30 歳～50 歳代では、「親や親族の介護が担えるか不安」「老後の生活が不安」といった、これから迎える老後に対して漠然とした不安を感じている様子。
- ・ 60 歳～70 歳代以上については、「自分が介護が必要になったときに不安」「年金だけで生活できるのか不安」「自分の健康に関すること・それに伴うことが不安」といった、老後をより具体的に意識した不安が多い。
- ・ 仕事やお金についての不安が、どの年代も一定の回答がある。
- ・ 「独り身であること・一人暮らしであること・頼る人がいないなどの不安」といった、いざというときに気づいてもらえない、頼る人がいないといった生活リスクに関する回答もやや多い。

問 37 横須賀市の自慢（自由記述）【報告書 pp.60-61】

- ・ 横須賀市の「自然が豊かなこと（海・山・緑など）」や「海が近いこと・海がきれいなこと」、「気候が良い・温暖な気候」など自然環境について、多く記述されている。
- ・ 生活環境についても、「都会すぎず田舎すぎないところ、バランスが良いところ」「交通の便が良い・都心までのアクセスが良い」といった、自然環境と生活利便性の両面から住みやすさを感じている様子。
- ・ 豊かな自然環境がもたらす「海の幸や山の幸が豊富・新鮮な食」についての記述も多い。

問 38 10 年後、横須賀はどのような街であってほしいか（自由記述）【報告書 pp.62-63】

- ・ 全体の雰囲気として、「活気のある街」の記述が多く、経済活動の活発さや、地域のにぎわい、市民が生き生きと生活する明るい社会への期待。
- ・ 社会が多様化・複雑化する中で、「どんな人も住みやすい街」への期待。
- ・ 「高齢者に優しい街」「人と人との交流のある街」といった、高齢者も若い人もどんな世代も活躍でき、人と人との交流がうまれる機運や雰囲気づくりへの期待。
- ・ 「交通の便が良い街」「利便性の良い街」「大型ショッピングモールなど商業施設の充実した街」といった生活の便利さ、「子育てしやすい街」「医療・福祉が充実した街」といった制度等の充実など、生活環境の整備に関する記述も多い。

Ⅱ 集計結果に対する考察

問 1 横須賀市に引っ越してくる前の住まい

回答者の3割強が「生まれてからずっと横須賀に住んでいる」を選択、7割近くが市外からの流入となっている。この傾向は高齢層においても同様であった。

こうした結果の背景として、高度経済成長期における工場立地や住宅供給に伴い、市外からの多くの人の流入があったこと、また自衛隊員の転勤による定住などが考えられる。

今回の調査結果からみると、今の横須賀は「生まれてからずっと横須賀に住んでいる」人と市外から流入してきた人が、互いに文化や歴史を共有しながら、地域社会の構成員として、つくりあげてきたと考えられる。

問 4 これからも横須賀市に住み続けたいか

問 5 「市内に住み続けたい」または「いずれは戻ってきたい」と思う理由

問 6 「市外に転居したい」または「一度は市外に出たい」と思う理由

問 7 どこに転居したいか

全体の7割が「横須賀に住み続けたい」という結果が示されたものの、特に40歳代以下ではその傾向が弱く、年代によっては半数に満たない状況にある。

こうした状況の中で、今後、『横須賀に住み続けたい』という人を増やすためには、回答の選択肢として「どちらとも言えない」を選んだ、約3割の方にはいかんして「住み続けたい」という考えをもってもらうかが重要になる。

特に、将来的な人口構成に影響する40歳代以下の暮らしのニーズや思いを把握し、それにあった方策を講じていくことが今後の横須賀のためにも必要といえる。

問 20 家族・職場以外の人との会話頻度

「家族・職場以外の人との会話頻度」⇔「地域の人とのつながり」と仮定すると、女性より男性、二人以上の世帯より単身世帯が「地域の人とのつながり」が弱い傾向がみられる。

「地域の人とのつながり」を生活する上での安心や安全の基盤だとすると、こうしたつながりの希薄化がみられる属性にある人たちの実態にあわせた「仕組み」や「場」づくりなどの方策を講じることが必要である。

問 21 趣味のグループ・サークル活動や習い事への参加状況

問 22 地域活動やボランティア活動、NPO 活動への参加状況

問 23 地域活動（町内会活動など）への協力または参加を増やすための条件・きっかけ

人には暮らしの中で、年代や生活環境に応じたさまざまな「つながり」の機会がある。

今回の調査では、「人とのつながり」の状況をサークル活動や地域活動等への参加状況という切り口でみたが、参加率は全体の約 3 割という結果となった。この結果の高低について言及することは難しいが、問 20 と同様に、「人とのつながり」を生活する上での安心や安全の基盤と考えると、今後、サークル活動や地域活動（町内会活動など）など、何らかの活動を通じて人との関わり、つながりをもってもらうことが望ましい。

問 23 で、特に若い世代からは、「時間や期間にあまりしばられないこと」「楽しんでできる活動・イベントであること」が多く選択されていることから、今後の考え方として、形式的な活動ではなく、例えば親子で参加できる活動など、緩やかな活動形態から参加を促していくことが必要だと考えられる。

問 24 同居家族以外で頼りにできる人がいるか

同居の家族のほかに頼りにしているのは、離れて暮らしている家族・親族や以前の友人といった身近な人が多く選択された。一方で約 1 割、10 人に一人が「頼りにできる人がいない」という結果もみられた。問 20 と同様に、「人とのつながり」が、生活上の安心・安全の基盤と考えると、この結果を行政、地域が共有し、互いに認識しながら、これまで以上に、地域における人と人をつなぐ仕組みづくりを検討していくことが重要になる。

問 26 家族・親族以外の方と、頼り・頼られる関係をつくりたいか

頼り・頼られる関係をつくりたいと「思わない」を選択したのは全体の約 1 割で、残りの 9 割は、一定程度「頼り・頼られる」関係をつくりたいと思っていると考えられる。

ただ、高齢層は「頼られれば助けてあげたいが、自分のことは自分でなんとかしたい」の回答割合が高く、他者への思いやりは持っているものの、他者に助けを求めない、例えば人に迷惑をかけたくないといった傾向が強いことが見て取れる。

成熟した社会において、個人の自由を求める声が、家族や地域のつながりの脆弱化を進展させたとも考えられる。こうした状況の中で、地域コミュニティを発展させていくためには、かつての「お互いさま」といった相互扶助により支えられていた暮らしを、今の時代に適した形で、再構築していくが必要になる。

問 36 今後の生活において不安に感じていること

年齢を重ねることによって生じる不安が多くあげられた。加齢に伴う身体的変化、介護の必要性の増加、引退後の生活費用といった健康・介護・お金など、様々な分野の課題が絡み合って不安が生じていると推察される。個人ではなく世帯、単独ではなく複合的な要因によって生じている課題に対して、個々に対策を講じるのではなく、包括的・総合的に解決していくが必要になる。

問 37 横須賀市の自慢

横須賀市の自慢は、豊かな自然環境、自然環境と生活利便性のバランスの良さ、自然環境がもたらす食など、自然環境に起因するところが大きい。また、20～40 歳代の一定数が、「都会すぎず田舎すぎないところ」に、横須賀の魅力を感じている。

こうした市民の思いやニーズ、また時代の流れ、社会の変化に合わせて、横須賀市の自慢できるところ、良さを効果的に活用し、更に、魅力的なまちづくりを推進していく必要がある。

問 38 10 年後、横須賀はどのような街であってほしいか

年齢を問わず、全体として「活気のある街」への期待が表れており、暮らしやすさと地域活力の両面において充実が求められている。このことは、現状の「閉塞感・停滞感の蔓延」からの脱却への期待とも読み取れる。

人の価値観や生活様式が急激に変化する中で、市民の不安解消といった今の課題に対する施策と、横須賀の将来を見据えた施策の両面を進めていくことが必要である。

Ⅲ 調査回答者の属性

F1. 居住地域

	件数(人)	構成比(%)
本庁地域	232	14.9
追浜地域	127	8.2
田浦地域	67	4.3
逸見地域	36	2.3
衣笠地域	245	15.7
大津地域	156	10.0
浦賀地域	188	12.1
久里浜地域	220	14.1
北下浦地域	127	8.2
西地域	152	9.8
無回答	7	0.4
合計	1557	100.0

F2. 性別

	件数(人)	構成比(%)
男性	687	44.1
女性	861	55.3
その他・無回答	9	0.6
合計	1557	100.0

F3. 年齢区分

	件数(人)	構成比(%)
15～19歳	81	5.2
20～24歳	69	4.4
25～29歳	58	3.7
30～34歳	91	5.8
35～39歳	95	6.1
40～44歳	113	7.3
45～49歳	127	8.2
50～54歳	135	8.7
55～59歳	123	7.9
60～64歳	126	8.1
65～69歳	152	9.8
70～74歳	224	14.4
75歳以上	162	10.4
無回答	1	0.1
合計	1557	100.0

F4. 居住年数

	件数(人)	構成比(%)
生まれた時からずっと	399	25.6
1年未満	21	1.3
1～3年	62	4.0
4～9年	124	8.0
10～19年	168	10.8
20年以上	780	50.1
無回答	3	0.2
合計	1557	100.0

F5. 居住区分

	件数(人)	構成比(%)
一戸建て(新築で購入)	708	45.5
一戸建て(中古で購入)	138	8.9
一戸建て(賃貸)	44	2.8
マンション(新築で購入)	156	10.0
マンション(中古で購入)	108	6.9
マンション(賃貸)	60	3.9
アパート	177	11.4
勤め先の社宅など	41	2.6
その他、無回答	125	8.0
合計	1557	100.0

F6. 職業

	件数(人)	構成比(%)
自営業(農林漁業や自由業を含む)	71	4.6
会社員	370	23.8
公務員、教員、団体職員	128	8.2
パート・アルバイト・派遣・契約社員	302	19.4
学生	110	7.1
家事専業(主婦・主夫)	192	12.3
無職(収入が年金のみの方を含む)	342	22.0
その他	36	2.3
無回答	6	0.4
合計	1557	100.0

F7. 通勤・通学時間

	件数(人)	構成比(%)
30分未満	413	40.6
30分～1時間未満	276	27.1
1時間～1時間30分未満	183	18.0
1時間30分～2時間未満	63	6.2
2時間以上	36	3.5
無回答	46	4.5
合計	1017	100.0

※F6で、「自営業(農林漁業や自由業を含む)」「会社員」「公務員、教員、団体職員」「パート・アルバイト・派遣・契約社員」「学生」「その他」を選んだ人が回答対象

F9. 世帯構成

	件数(人)	構成比(%)
単身(一人暮らし)	310	19.9
夫婦のみ	421	27.0
2世代同居(親と子など)	640	41.1
3世代同居(親・子・孫など)	98	6.3
その他	78	5.0
無回答	10	0.6
合計	1557	100.0

F10. 同伴者(複数回答)

	件数(人)	構成比(%)
小学生未満の人	107	8.6
小学生・中学生	182	14.7
65～74歳の人	312	25.2
75～84歳の人	187	15.1
85歳以上の人	70	5.7
いずれもない	424	34.3
無回答	68	5.5

※F9で、「夫婦のみ」「2世代同居」「3世代同居」「その他」を選んだ人(=1237人)が回答対象

F11. ペットの状況(複数回答)

	件数(人)	構成比(%)
飼っていない	1168	75.0
犬を飼っている	200	12.8
猫を飼っている	118	7.6
犬・猫以外の動物を飼っている	82	5.3
無回答	18	1.2

※回答対象は1557人

※F8 は、労働日数および労働時間を自由記述で回答。回答が多岐にわたったため掲載を省略。